

農薬の飛散・流出防止対策

農薬飛散のリスクは、周辺環境や作業方法などでも変わります。そのため、基本となる飛散防止対策と、周辺環境に配慮した対策をとりましょう。

飛散防止のための基本的な施用法

風の無い時を選んで散布

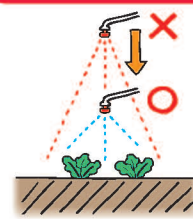
- 風の無い日や風の弱い時刻を選んで散布する
- 散布中でも、風向きや風速は変化するので常に注意しながら行なう

飛散の少ない施用方法で

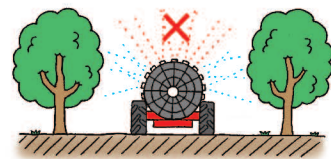
- 農薬は対象とする作物だけにかかるようにできるだけ作物の近くから散布する
- 圃場端部では内側に向かって散布する
- 高さのある作物などは、枝葉のない方向へ飛ばさないように注意する
- スピードスプレーヤーでは、樹型に合わせたノズルの配列や噴霧量を調節し、巡回時や作物の無いところでは散布を止める
- 飛散しやすい場所は手散布などで行なう

水田での農薬施用後7日間は止水管理を徹底する

作物の近くから散布



不要な噴霧を止める



農薬散布後7日間は止水する



周辺環境に配慮した飛散防止対策

作物や栽培法が異なる圃場間には遮蔽物を設置する

- 圃場が隣接している場合は、防風などに使用するネットを設置する
- ソルゴーなど繁茂する遮蔽植物を植えたり、緩衝区を設ける

遮蔽物の設置



収穫間近の作物に配慮

- 収穫間近の作物がある場合は散布日を調整する
- 散布時に近接作物(収穫間近の場合)を遮蔽シートで覆う

ノズルによる飛散の程度



より飛散しにくい散布方法へ切り換える

- 飛散の少ない剤型や施用方法を選択する
- 飛散低減ノズルなど、適正な器具を使う
- 周辺作物にも登録のある農薬を選ぶ

農薬の保管、防除器具の管理を確実に行う

- 散布器具は日頃から整備し、使用前にいま一度点検し、使用後は確実に洗浄する
- 農薬は専用の保管庫で管理する(毒劇物保管庫は施錠、表示が必要)
- 使用済みの空容器等は適正に処理する

しっかり洗浄する

